

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

充実した旧東独地区の視察

-ドイツ研修旅行報告-

2006年以来、2年ごとに開催しているドイツ研修旅行は、中止となった2014年を除き今回で6回目、会員、会友19名と添乗員佐藤さんの20名での催行となった。一行は5月25日に成田発11:00のデュッセルドルフ行きNH-209便で出発。旅行中は最終日を除き、殆ど毎日好天に恵まれたが、気温は、6月の想定最高20℃を大きく上回る30℃以上で、途中半袖を調達した会員もいた。



「日本デー」で習字を熱心に学んでいる様子

2日目のオプションツアーでは、ニーダーライン地方の巡礼の町ケーペラーとアスパラガスの本場、ヴァールベックへ。昼食は、アスパラガスの食べ放題の店で、ハムと共に満喫。午後2時過ぎにデュッセルドルフの「日本デー」会場に戻り、千葉県ブース班に合流。「折り紙」、「習字」を教えたり、他のブースを見学。ライン川沿いの会場には60万人を超えるドイツ各地からの観光客で溢れ、コスプレ姿の若者が目立っていた。夜11時過ぎから、市役所2階の会議室から目前に打ち上げられる花火を深夜まで楽しんだ。

27日、ICE（新幹線）にてベルリンへ。バスでポツダムにあるフリードリヒ大王のサンサーシ宮殿と庭園、ポツダム会談が行われた、ツィツェーリエン宮殿を見学。翌日、バスで市内観光。ベルリンを分断していた壁の一部は、アーティスト達の絵画で埋められていて、プレジネフとホーネッカーの抱擁の絵など一部を除き3年前とは異なる絵になっていた。フンボルト大学の校舎、森鴉外記念館、チェックポイントチャーリーの博物館も見学。館内には、西側へ脱出した時に使用された器材が展示、脱出者達の命がけの工夫に驚嘆。29日は、乗り降り自由のバスで市内見学。(18ユーロ/日)ブランデンブルク門で下車して、散歩を楽しむ。

翌日、ベルリンからバスで2時間余りのヴィッテンベルクへ。マルティン・ルターの家、カトリックの免罪符販売を批判した95条の論題を張り付けた聖堂の門等を見る。午後、ライプツィヒの聖トマス教会、バッハ像、同博物館見学して夕刻にマイセンへ。今回、ザクセン選帝侯アウグスト強王が錬金術師ヨハン・フリードリヒ・ベトガーを監禁、磁器製造の秘法を研究させたアルブレヒト城の作業場を見学。31日、ツヴィンガー宮殿横、アルテマイスター博物館の名画を鑑賞。午後にはザクセンスイスへ。巨大な岩山の上に立つケーニヒシュタイン城からはエルベ川を見下ろし、周囲の風景を一望出来るドイツとしては珍しいスポット。翌日、プラー空港からデュッセル経由で2日午後帰国。参加者からは、旧東独各地を回る事が出来て参考になったとのご意見をいただいた。20年



ドレスデンでの記念撮影

以上滞独経験のある橋口名誉会員は、東ベルリンの変貌ぶりに驚き、旧東独地域の広大な畑が以前と余り変わらぬ姿で残っていたのが印象的・・・とのことであった。参加者から「次回、①オランダ・ベルギーか、②北ドイツ方面を旅程に加えて欲しい」との意見があった。(会長 金谷 誠一郎)

日独若者交流プログラムに参加して

-日独交流国際会議2018-

5月20日～22日、金沢で開催された日独交流国際会議において、若者交流会議、ワークショップ「日独の若者交流の実例から今後の交流拡大を探る」のプログラムを中心に参加した。

このプログラムには、35歳以下の日本人13名、ドイツ人11名が参加。学生・社会人関係なく、言語のレベルもドイツ語または日本語が全くわからないという参加者もいたが、皆、「日独交流の今後の発展のために寄与したい」という志を持っていた。ドイツ人参加者には、初めて来日した人、日本で仕事をしている人、毎年カッセルで大規模なアニメ・マンガイベントの企画・運営を行なっている人など多彩で、より多くの視点から意見を伺うことができた。



若者交流出席者（筆者左端）

これまでの日独交流への携わりを共有、今後、日独交流をどうすすめるか、若者への参画について議論した。若者の参加について、日本人参加者は、東京の日独協会を除きどの地区の協会も若者の会員数が少ない点、ドイツ人と関わる機会は多くはない点を課題として挙げた。一方、ドイツの独日協会は、地区によっては会員の40%が若者で構成、在独日本人と関わる機会が頻繁にあるとの点が印象的であった。日独共通の意見としては、会員が各協会のイベント情報を発信したりできる共通のプラットフォームが欲しいという点であった。



白熱した日目の議論の様子

個人差はあるものの、日本人は、総じて発言回数が少なく、ドイツ人が「君たちはどう思う？日本側の意見も聞きたいな」と話を振ってくれたこともあった。ドイツ式のディスカッションは、非常にスピーディーで他の人の発言途中でも、さえぎって話し始めることも珍しくなかった。日本式のディスカッションに慣れているので最初とても苦労した。日本側は他人に気を使わずと発言のタイミングを失ってしまう。ドイツ側も日本のディスカッションの方式を知識として知っていると、お互いにとってよりフェアに話し合いができると感じた。日独の若手メンバーとは、プログラム外でも一緒にご飯を食べたり、カラオケに行ったりして限られた時間の中で多くの交流をした。LINEやFacebookでも繋がったので今後も交流を続けていこう、再会しようと約束した。個人的にもドイツ人のタンデムパートナーもできた。今回得た人との繋がりをこの先も大切にしていきたいと思う。(青壮年部 竹内 優)



打ち解けた昼食の様子

ザルツブルク音楽祭

魅了される高度な芸術性、華やかさ

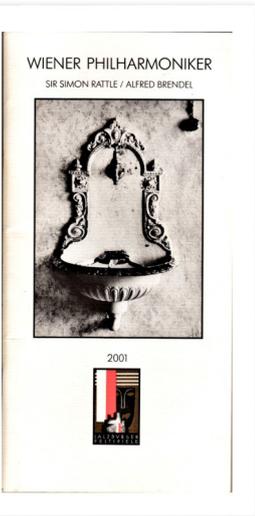
夏はヨーロッパ各地で音楽祭が開催される。中でもモーツァルトの生まれた街、オーストリア・ザルツブルクにおけるザルツブルク音楽祭は、規模、質、華やかさなどで一二を争う音楽祭といえるだろう。

ヨーロッパの音楽会シーズンは通常9月から6月である。そのため、例えばウィーンに行きたくてウィーンフィルを聴きたいと思っても7月8月はシーズンオフのため叶わない。一方、この時期ザルツブルクではウィーンフィルもベルリンフィルもロンドン交響楽団も聴くことができる。オーケストラだけでなく指揮者、ソリスト、すべて一流の芸術家が名を連ねるプログラムは、クラシック音楽愛好家にとって見るだけでワクワクするものだ。出演者が一流となれば観客も華やかだ。政治家ではメルケル首相は毎年、昨年はマクロン大統領も来たようだ。オーストリア局のニュースは毎晩、音楽祭の様子や観客に来た有名人たちを映し出す。

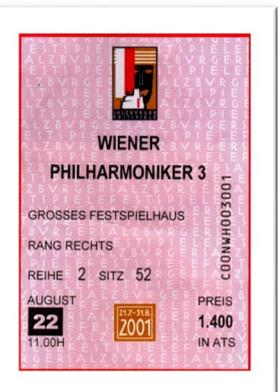
ザルツブルク音楽祭の歴史は1920年に遡る。第一次世界大戦後の平和プロジェクトとして著名人たちの尽力により創立され発展し、演劇、オペラ、コンサートの祭典となった。現在では、毎年7月下旬から8月末（今年は7月20日から8月30日まで）の期間中、連日昼夜多彩なプログラムが繰り広げられる。会場は市内を流れるザルツァッハ川を挟む旧市街に点在し、祝祭大劇場、大聖堂広場、モーツァルト劇場（旧祝祭小劇場）、モーツァルテウム財団大ホール、フェルゼンライトシュレ、ザルツブルク州立劇場、聖ペーター教会など。内容は、演劇、オペラ、管弦楽、室内楽、独奏や独唱といった様々なジャンルが、モーツァルトから現代音楽、古典から新作初演までの幅広いスタイルで常に発展を試みていることが、他の音楽祭にはない話題性を呼ぶ要素の一つだろう。

筆者は1994年から2001年までのザルツブルク滞在中、事前のチケット抽選に申し込んだり、直前に戻ってくるチケットを求めてチケットオフィスに日参したりして、毎年この音楽祭に足を運ぶ恩恵に与った。中でも斬新な演出を観られるオペラは贅沢なひと時だった。ゴージャスな舞台装置と衣装の『ばらの騎士』では夢の世界へ誘われ、簡素な舞台装置に現代風な背広が衣装だったモーツァルトのオペラでは、プーイングを出したり帰り出したりする聴衆もいて驚かされた。

夏の音楽祭期間中、街は独特の雰囲気にも包まれる。演奏会は早いもので11時から、遅いものは21時から始まる。日中の会場前は演奏会に来る人々とそれを見物する観光客で道が溢れ、夜のレストランは演奏会前に優雅に夕食をとる着飾った人々で賑わう。日の長い夕刻に着飾った人々が会場前の道に集まり談笑している情景は、昼間の観光客であふれる賑やかさから一転し、中世の面影を残す街自体が音楽祭の舞台となる。



Sir. サイモン・ラトル指揮ウィーンフィルとアルフレッド・ブレンデルの演奏会プログラム



ザルツブルク音楽祭チケット



モーツァルテウム財団大ホール（筆者右端）

（編集委員 土屋 有里）

旧東独（DDR）における経済

生まれ育った人から見るとどうなるか

今回、8月8日開催された日独協会主催のドイツ語圏文化セミナー「私は、東ドイツに生まれた-Die Wirtschaft in der DDR（東ドイツにおける経済）」に参加。当時の東独経済がどのように始動し、市民生活に影響を与えていたかをレポートする。これまで西側から見たDDR解説は、多数あるが、実際にDDRで生活した視点からの説明は、説得力がある。

まず、1989年、ドイツ統一がなされたが、DDR市民の多くは、政治体制の変革を望んでいたものの、経済的な改革を望んでいたわけではなかった。実際、1989年時点で国民1人当たりの負債額は、DDR 5,384 DM/西独 15,000 DMであり、国民1人当たりの生産性は、1950年当時DDRは、西独の1/3であったが、1989年は、2/3にまでDDRの生産性は、向上していた。1951-1989におけるGDP成長率は、DDR 4.5%、西独 4.3%であり、経済規模が異なる点は考慮する必要あるが、「経済は、そこそこ悪くなかった」と解説されていた。

しかし、戦災の復興を行いつつ、戦後の賠償責任より、ソ連による生産設備の撤収、アメリカの西側支援策であったマーシャルプランを受け入れることもできずDDR経済のスタートは、多難であった。そのような状況下、DDR政府は、生活必需品に対する補助金政策を実行、労働者の不満が発生しないよう配慮をしていた。日々のパンは、5ペコビ、1リットルの牛乳は、68ペコビに対して、国民車のトラバントは、8,000マルク、平均月収1,000マルクの労働者の月額給与の8か月分を要した。

DDR経済の成長の阻害要因としては、東独マルクが国際市場で両替できない点、劣悪な資源環境（褐炭中心）、石油、ガス資源のソ連のみへの依存（価格高騰リスク）、労働者の減少（その後、壁構築で防御）、旧式の生産設備、COCOMによる西側からの戦略技術の提供禁止、常態化した外貨不足であった。

そのような状況下、当時の制度の一つとして“Gestattungsproduktion”（認可生産）がある。西独の企業は、自社製品の生産をDDRで行うというものである。西独は、DDRの安い労働力で生産できた。しかも、同じ言語でコミュニケーションを行うことができ、高品質の生産を期待できた。一方、DDRは、西側ノウハウを吸収しながら、一部の生産品をそのままDDR国内のIntershopでの販売を通じて外貨獲得ができる。非常に考え抜かれた手法と思った。

また、東西ドイツ間の仕組みとして興味深いのは、GENEXという仕組みであった。例えば、親戚など知人が西独居住の場合、GENEXカタログに掲載されている東独製品を西側で購入、DDRの知人に贈るというような仕組みである。DDR政府は、外貨収入を見込める。

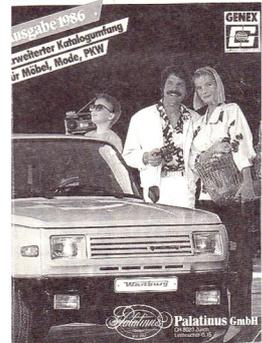
これらの経済施策の根源は、計画経済である。国家計画委員会は、すべての製品について生産目標（5年単位）で計画、すべて目標値に対して達成されたかどうかで評価された。目標値は、法的拘束力を有していたという点は、徹底している。現場マネージャーは、目標値が達成できない場合、配置換え、私有財産没収など厳しいペナルティにさらされていた。質よりも量的成果が求められていた点で賃金が同じ中、勤勉労働者に対して表彰状などの名誉でモチベーションを引き出していたという話も興味深かった。労働者を重視、労働者の不満、反抗に注意を払い、当時、人気のある住宅設備を補充した政府のスタンスなどDDR国内事情を興味深く得ることができた。（編集委員 勝見 浩明）

Riesner氏 プロファイル

1965年 Genthin（ザクセン-アンハルト）生まれ。マクデブルク工科大学卒業。千葉大講師。『私は東ドイツDDRに生まれた』（東洋書店）執筆者。



Geschenke in die DDR



西独在住者向けGENEXカタログ

20世紀初頭ドイツのアジア政策

千葉フォーラム歴史・文化の会講演

星 昌幸氏講演会 (7月15日)

千葉フォーラム歴史・文化の会(当協会後援、代表、須古正恒=当協会副会長)による第69回勉強会、「不都合な歴史-ドイツ捕虜余話」とタイトルがつけられた講演会に出席した。

本講演のタイトルは、「不都合な歴史」となっており、いくつかのエピソードで一般に知られている歴史的事実では知りえない史実が紹介され、新たな認識を得ることができた。

その中で習志野俘虜収容所のドイツ人の人道的な待遇がフォーカスされるが、1917年日本の欧州定期航路で「常陸丸」は、ドイツ仮装駆逐艦「Wolf」に撃沈、日本人の乗客、乗務員は、ドイツ側に俘虜として拘束されます。その他、当時、ドイツの留学生など民間人もドイツ各地の収容所、馬小屋で厳冬の中、厳しい収容生活を余儀なくされた。当時のドイツの日本に対するの姿勢を垣間見ることが出来る。

1927年、蒋介石に対してドイツ人が軍事顧問団を送り込み、軍事指導を行い、実際、1931年の軍事指導を受けた中国軍と日本軍が万里の長城付近で交戦した。1933年にナチス政権が成立後、ドイツ製武器を装備した中国軍20個師団を編成、上海周辺に日本を迎え撃つ防衛線の建設に着手。1934年、ベルリンに中国内のドイツ産業を統括する国策会社「ハプロ」が設立。ハプロ条約が独中間で締結される。ドイツは、中国内における希少資源とドイツの兵器の交換が国策として行われていたのは、注目に値する。1935年、ドイツ側より蒋介石に対して「対日戦略案」が提示され、上海の日本軍を急襲、日本を英米と対立させ、戦闘を長期化させることで日本を敗北に導くという内容であった。このドイツの中国への基本政策は、1940年位まで継続されたそうであるが、この間、ヒトラーは、蒋介石と提携しつつ、並行して日本との関係を1936年「日独防共協定」、1940年「三国同盟」で締結する。ドイツ外交の基軸が、その後、最終的にナチ政権により、日本側にシフトするが、1937年、蒋介石による上海での奇襲攻撃は、既述のドイツの軍事提案によるものではないかという主張は、興味深かった。(編集委員 勝見 浩明)

星 昌幸氏 プロファイル

習志野市学校給食センター所長。1997年、教育委員会社会教育課在勤の折、習志野のドイツ兵が残したポトルシップに出会い、習志野俘虜収容所の研究に着手。『ドイツ兵士を見たニッポン』(丸善ブックス) 執筆者。



ドイツ軍服に身を包む国民党軍兵士

青壮年部活動スタート (7月1日、14:00-16:00 Face 5F)

今年の総会にて承認された青壮年部の第一回目の活動が行われた。若手会員による活動内容の多様化、活性化を図り、会員の増員を図るには、どのような施策を検討すべきかというテーマで議論が行われた。広報、イベント、研究会の3分野の視点でグループに分けて検討を始動した。メンバーは、竹内、本間、太田黒、土屋、本橋、勝見、金谷、中野、堀江(敬称略/写真左端より時計回り)。



会議後の懇親会

既に具体的な計画案も出され、8月の運営委員会にて協議を行う。

ベルリン一人旅



ドイツと私 - 本間 実里

自分にとってベルリンは思い出のある場所だ。以前、仕事でベルリンに長期出張したことがあった。あれから随分と年月が経った今、再びベルリンの街を散策してみたいと思い、休暇を利用してベルリンを訪れることにした。2014年9月14日、ベルリン・テーゲル空港に到着。この空港は、現シェネフェルト空港の拡張工事が完成後(2020年開港予定)に廃港されるらしい。すでに閉鎖されている施設も一部見受けられた。

空港を出てタクシーに乗り、行先のホテル名を告げると、トルコ人と思われる運転手は、私に流暢なドイツ語で気さくに話しかけてきた。ヘルシンキ経由の長時間フライトによる疲れもしばし忘れ、会話がはずんだ。特にベルリンはトルコ系移民が多いことをテレビ等で知ってはいたが、ドイツという彼らにとっては異国の地であるはずの場所で、実際に生計を立てて暮らしているのだ、ということを感じた。前回の滞在では、ベルリンはまさにドイツ人のための街という印象を強く感じた記憶があるが、今回の旅では、どんなベルリンを見ることが出来るのか楽しみになった。

しばらくしてホテルに到着。Sバーン、Uバーン両方のポツダム広場駅(Bhf. Potsdamer Platz)から徒歩数分の所にあり、利便性も良く、騒音も少ないホテルだった。

翌日、ホテル近辺のポツダム広場を散策。ここは東西統一後に再開発された地区で、駅周辺には大小様々なオフィスビルや住居ビルが多く立ち並ぶ。多くのベルリン市民が自転車に乗って通り過ぎていく。ドイツの都会らしい風景の一つだ。ちなみに、ベルリンの面積は東京23区の約1.5倍、しかし人口は東京の3分の1程度。市内は鉄道網が発達していて、新路線が現在も建設中だ。

ショッピングセンターのアルカーデン(Arkaden)を訪れると「東西ドイツ壁崩壊25周年」と書かれた垂れ幕があり、その下に、今は無き国境検問所チェックポイント・チャーリーの模型と警備服姿のマネキン人形が並んで置かれていた。25年があつという間に経過したのだ、と思ったが、ここで暮らす人々にとって25年がどういう意味を持つのか、このモダンな建物の中でふと考えてしまった。



ショッピングセンター Arkadenの店内

今度は、ポツダム広場駅からUバーンで東地区にあるムゼウムスインゼル(Museumsinsel)に向かった。ベルリン美術館を構成する5つの博物館・美術館が集まっていて「博物館島」と呼ばれる。ここ東地区は、壁崩壊後に新たに開発されているものの、西地区とは異なる独特の雰囲気があり、何時間散策しても飽きることはない。以前、博物館島の近くのホテルに滞在していたが、今は当時のホテルも無くなったこの地区に来ると、ここでも時の経過とベルリンの変貌を感じた。

歩き疲れたので、再びポツダム広場へ戻り、ベルリン・フィルハーモニー近くのスターバックスで一休み。日本と同様、多くのサラリーマンや学生が利用していた。夕方、老舗高級デパート KaDeWe (Kaufhaus des Westens)の向かい側にある屋台で、カレーヴルストを立食していた時、目の前のヴィッテンベルクプラッツ駅(Bhf. Wittenbergplatz)入口の脇にユダヤ人収容所の地名が書かれたプレートがあることに気づき、ドイツの歴史の足跡が垣間見えた。

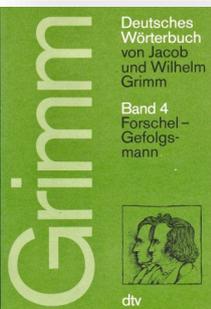
こうして1週間があつという間に過ぎ、帰国の日を迎えた。ベルリンは、ドイツの様々な歴史の跡を街に遺しながら、多くの移民を受け入れ、経済大国の首都として変貌し続ける都市であることを改めて体感した。この経験がドイツへの私の関心を深めることになったかもしれない。もしドイツへ行く機会があるとすれば、またベルリンを選ぶだろう。どんな変貌をしているかを再び確かめるために。

ドイツ語の辞書について

語彙力をつけるために

語彙力をつけるには、日々、多読、精読を繰り返すことが効果的である。その際、ドイツ語をドイツ語でどう説明しているのか、具体的にどのような例文で用いられているのか、同義語としてどのような語彙が挙げられているのか、語と語の関係をドイツ語辞書で得ることができる。例えば、“annehmen”, “vermuten”, “denken”, “glauben”, “meinen” いずれも自分の考えを述べるときに使う動詞であるが、確実性の度合いと個人的な考えの度合いドイツ語では使い分けられているのが理解できる。独和辞典では、「推測する」「〜とおもう・考える」であり、使い分けの基準の情報は得にくい。Langenscheidt社の“Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache”は、「外国語としての大ドイツ語辞典」と命名されており、重要語彙には、用例も丁寧に説明され、ニュアンスの違いを把握することができる。

尚、莫大な用例を示している辞書としては、グリム兄弟が着手、完成まで123年かかったドイツ語辞典を欠かすことはできない。既出の“annehmen”の語の説明は、歴史的な生成の経緯、豊富な用例を2頁を使って説明している。全33巻の内、Jacob Grimmが執筆したのは、4巻目の“Frucht”の記述までであるが、後の弟子、後継者が東西分断中でも協力して編纂、組織的に忍耐強く用例の編纂を徹底したドイツらしい辞書である。



▶ annehmen – vermuten – denken
Mit manchen Verben kann man über die Meinung einer Person zu Grad der Überzeugung ab, mit dem diese Meinung ausgedrückt.
Annehmen ...
[drückt den höchsten Grad an Sicherheit aus. Ein Irrtum ist zwar sehr unwahrscheinlich:
Die Polizei nimmt an, dass es sich um ein Verbrechen handelt. Ich nehme an, er wird morgen von seiner Reise zurückkommen.]
Vermuten ...
[drückt aus, dass etwas als ziemlich sicher gilt.] Es ist wahrscheinlich, dass er die Prüfung nicht bestehen wird.
Denken, glauben, meinen ...
[drücken aus, dass es sich um ein persönliches Urteil handelt. Meinst/Glaubst du, dass das geht? Ich denke, er wird wohl mitmachen.]

FRUCHT, f. fructus, ein schon früh aus dem latein entnommenes wort, ahd. mhd. als. frucht, fries. frucht, nl. vrucht, wahrscheinlich weil es so oft in biblischen bezügen wiederkehrt, die Goten behielten das heimische akrant (1. 173. 3. 24) und nicht nur für die frucht des baums, sondern auch des lebens (akran gihaus); die Angelsachsen västm (ahd. walsamo, walsamo sp. alln. ävökt), das noch engl. lange fortduerte, bis es endlich dem romanischen fruit wich. nicht anders sind das isl. frukt, schwed. frukt, dän. frugt erst späteren ursprungs. den Slaven blieb ihr plod, den Lithauern ihr vauisus, den Letten ihr auglis unverdrängt. *)
Der pl. lässt sich ahd. bei der seltenheit des erst aufgenommenen wortes nicht nützlich zeigen und kommt selbst mhd., weil es hier meist im sg. gesetzt wird, nur spärlich vor. er lautet mhd. fruchte, nhd. fruchte. daneben aber bildete sich auch schon mhd. eine schwache form fruchten, die zuerst in der stelle bei BOWER 4, 6 der besten fruchten ist er (der baum) vol
*) Mit diesem worte sollte JACOB GRIMM seine feder von dem werke leidet für immer niederlegen. das übrige bis zu ende des so weit geführten buchstabens ist meine arbeit. WEIGAND.

赤枠: アスタリスクの箇所以降、弟子のWeigandが記載を引継ぐという注記

書籍/Buch

ドイツ語が母国語のドイツ人も判断に迷うドイツ語の表現について Bastian Sick氏がユーモアを交えて語用法を絶妙に解説。ドイツ人読者の質問を通じて現代ドイツ語の最新のドイツ語の運用状況や歴史的背景など知ることができ、貴重な情報源になる。ドイツ語学習者には、有益な書籍と思われる。知り合いのドイツ人からもしばしば推進。現在、第6巻までリリース済。写真は、1-3巻の合本、ハードカバー版¥1,302- (amazon.co.jp)。



活動報告-国際フェスタ千葉2018

千葉市美浜区の幕張新都心にある神田外語大学の校庭と校舎を舞台に、5月27日(日)、「国際フェスタCHIBA」が開催され、当協会は今年も写真展示によるPRを行った。この行事は、「公益財団法人・ちば国際コンベンションビューロー」が主催、JICA東京の共催により、県内における国際交流及び国際協力各団体が教室や廊下に展示物を置き、各団体の活動成果を発表した。

また、「幕張チャリティ×ソラビト」と「コミュニティ・オープン・デイ」が同時開催され、校内の広場では大学生はもとより老若男女が集い、好天のもと、とても賑やかなイベントであった。(上段/右サイドに続く)

(下段左サイドから続く)

当協会ブースは、大学内の廊下に設置し、来場者は100名程度で、多くは子供達のスタンプラリー目的であったが、10名ほどが展示写真を見学されていた。尚、千葉県総合企画部国際課国際交流協力室の皆様が、校庭に張られたテント内で焼き立てのホットドッグを元気な声で販売していたのが印象的であった。



(常任理事 吉川 三朗)

杉田専務理事、須古副会長、吉川常任理事

今後の予定

- 9月29日 日帰りバス懇親研修旅行 0800出発/1830頃千葉駅前着
習志野俘虜収容所に収容されていたカール ヤーンよりソーセージの製法を日本全国に広めた飯田吉英の故郷(霞ヶ浦)を訪問、シーボルト事件の原因となった伊能忠敬(没後200年)の故郷(佐原)を訪問。費用8,000円(35名の場合)、会員、会員家族、会員友人対象。9月15日以降キャンセルされた場合は、キャンセル料発生。
- 9月30日 市川ドイツデイ 1100-1700
ニッケコルトンプラザ・コルトン広場。当協会後援。協会写真展。
- 10月13-14日 習志野ドイツフェア 1100-2000 (14日/1900まで)
モリシア。ステージイベント、ビール、ソーセージ、協会写真展。
- 10月14日 ドイツパンと料理を楽しむ会 (第3回) 1500-1800
ドイツ人講師Felix氏のレシピ復習第2弾として、ジャガイモ料理の一種「パウエルンフルーシュトゥック」(Bauernfrühstück)とベルリン風オープンサンド「シュトラマーマックス」(Strammer Max)を調理。募集人員 20名-先着順。
● 場所: 東部公民館 2F実習室 (JR津田沼駅北口より徒歩5分) 047-477-7171
● 会費: 1,500円 (材料込)
● 持ち物: エプロン、手拭き、タッパー (持帰り用)、飲み物 (除く、アルコール類)
● 連絡先: 金谷 043-248-0226
info@jdg-chiba.com
杉田 047-444-6423/080-5508-0688
sugita-f@tbz.t-com.ne.jp

会員情報

- 新入会員 7月9日 苅屋 優子 市原市
- 法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事、メルセデス・ベンツ日本 (株) 習志野事業所

訃報

理事・運営委員を務められていた澤井秀之氏は 去る7月7日に病気の為 逝去されました。享年74。葬儀は7月13・14日に千葉市稲毛区のアレア稲毛ホールで行われ、橋口名誉会員、金谷会長のほか、須古、杉田、小野、田中、坂本(宗)各氏らが弔問した。故人は 当会が進める千葉県とドイツとの歴史的なつながりの探求されました。佐倉順天堂三代目の佐藤進 (明治2年に日本人として初めてドイツの近代医学を学びにベルリン大学に留学、学位を取得) が、帰国後ドイツ医学がどのように普及していったか調査。イベント毎に会場で調査結果を展示。ドイツ語講習会の為 講師を選定、講師と共に特色あるテーマを選び 充実した講習会を実施されました。何事にも真摯に取り組まれた故人の冥福をお祈りします。(理事 坂本 宗秋)

編集後記

前任の田中編集長の「紙面改革についての提案」(14.09.13)に書かれていたDie Eichelに対する想いとして、会員がコミュニケーションの場となるような「マルクト広場」となることをコンセプトに挙げておられました。その為には、内容の充実が必要とされていました。記事を作り上げるには、決して楽ではありません。一方、青壮年部の皆様から積極的な広報について活発な意見も出され、活力を感じます。引き続き、内容の進化にチャレンジします。ご期待ください。 勝見 浩明